

和歌山県名匠

かわかみとしお
川上敏夫

職歴

昭和初年頃から同11年まで父川上文三郎（清秀）氏に師事し、その後宮口寿広、宮口恒寿氏に学び現在に至っている。

業績の概要

12才の頃から刀匠を志して先代清秀氏に師事し、鍛刀や梵字、棒樋など刀身彫刻を修業、戦時には軍刀を作るなど終戦まで作刀に専念した。

戦後の刀剣製作禁止時代にも他の刃物製作に転業せず刀の研究を続け、今日まで刀一筋に取り組んでいる。

鍛刀はもとよりはばき、白鞘、研ぎなど刀に関する一連の技術を習得している数少ない刀匠の一人である。

昭和40年文化庁登録刀匠となり、昭和41年には財団法人日本美術刀剣保存協会主催の「新作名刀展」に初出品して入選以来、6回の入選を重ねている。

また、氏は日本美術保存協会々員であるとともに那智勝浦町文化財審議会委員の要職にある。



職種 刀匠（刀銘 南紀川上竜子清光）